

工場抵當法案特別委員會議事速記録第一號

委員氏名

委員長 子爵岡部 長職君

副委員長 松岡 康毅君

委員

子爵堤 功長君

子爵新莊 直陳君

名村 泰藏君

平山 成信君

小松原英太郎君

山脇 玄君

男爵吉川 重吉君

男爵藤大路親春君

馬屋原 彰君

富井 政章君

木下 廣次君

菊池 武夫君

穂積 八束君

明治三十八年二月十四日(火曜日)午前十時二十四分開會

○委員長(子爵岡部長職君) 諸君、是ヨリ工場抵當法案ノ委員會ヲ開キマス

○國務大臣(波多野敬直君) 本案提出ノ理由ハ本會ニ於テ説明ヲ致シテ置キマシタガ、今日ハ此法律ノ大體ニ就キマシテ、政府委員ヨリ説明ヲ致シマス、又各條ニ就テハ御質問次第ニ依テ御答辯イタシマス、而シテ此法案ハ今日ノ場合最モ必要ナ法案デゴザイマシテ、豫テ實業社會ニ於テモ急務ヲ望ムデ居ル次第デゴザイマス、議會切迫ノ際デアリマスケレドモ、ドウカ速ニ御協賛下サリマシテ一日モ早ク法律ナルコトヲ希望イタシマス、御勉強ヲ願ヒマス

○政府委員(河村讓三郎君) 政府委員ヨリ一應本案ノ大體ニ付テ述ベマスデゴザイマスガ、全國ニ於キマシテ工場ノ數ハ七八千モアリマシテ、工場ヲ擔保ニシマシテ資金ヲ調達セムトスル場合モ少カラヌデゴザイマス、其場合ニ土地ト建物トガ抵當物ニナリマスコトハ勿論デアリマシテ、其登記ノ手續等モ備ハデ居リマスデゴザイマスガ、工場ナドノ土地建物ハ格別ノ價ヲ有シマス、比較的ニ大ナル價ノアリマスノハ機械器具ノ類デアリマス、然ルニ機械器具ガ抵當權ノ目的トナルヤ否ヤニ就キマシテハ疑ガアリマス、故ニ實際、機械器具ヲ抵當物ノ價格ニ見テ相當ノ資金ヲ調達スル者ガ無イト云フコトデゴザイマス、ツレガ爲ニ少カラズ不便ヲ感ジテ居ルデゴザイマスカラ、其不便ヲ除イテ圓滿ナル金融ノ途ヲ開カントスルノガ即チ本案ノ大體ノ目的デゴザイマス、其目的ヲ達スルノ方法トシマシテ前後二樣ノ規定ヲ設ケムトスルデゴザイマス、前段ノ規定ハ土地建物ノ上ニ設定シマシテ抵當權ノ效力ガ機械器具ニ及ブト云フコトヲ明ニ致シマシテ、其機械器具ノ上ニ及ビマスル抵當權ノ效力ニ關シテ種々ナル疑問ガゴザイマスノデ、其疑問ヲ解決セムトスルデゴザイマス、デ普通ノ僅カノ土地建物ニ機械器具ヲ備付ケテ居リマス小工場ハ此前段ノ規定ニ依リマシテ充分ノ資金ヲ達スルコトガ出來マセウカト考ヘマスルデゴザイマス、デ後段ノ規定ハ工場ニ屬シマス諸般ノ設備ヲ一括シマシテ、工場ノ財團ヲ設ケマシテ、ツレヲ抵當物トスルコトヲ許サムトスルデゴザイマス、此規定ニ依リマスルト、完全ナル工場トシテ經營マタモノガ擔保物トナリマスカラ、充分ノ資金ヲ調達スルコトガ出來マスル、ノミナラズ多クノ土地建物ガ有リマス場合ニ一筆毎ニ又一棟毎ニ登記ヲ受ケル、時トシマシテハ二三箇所ノ登記所ニ於テ登記ヲ受ケマスルト云フガ

如キ煩雜ナル手續ヲ要シマセヌ、又機械器具ガ多クノ土地建物ノ何レノ附屬物デアアルヤ判然セヌト云フガ如キ疑問ヲ生ズル憂モアリマセヌデゴザイマス、併ナガラ一方ニ於キマシテ財團ニ屬シマスルモノハ個々別々ニ處分スルコトヲ禁ズル等ノ必要ガゴザイマシテ、小工場ノ爲ニハ稍大袈裟ニ過ギルト云フヤウナ感ジガゴザイマス、併シ造船所、製鐵所ト云フ如キ大工場ヲ抵當ニシマスル場合ハ最モ適當デアラウト信ズルデアリマス、本案ノ大體ノ仕組ハ斯様ニナデ居ルデアリマスガ、再ビ後ニ戻リマシテ今少シ詳細ニ述ベマスデゴザイマス、前段ノ規定ト申シマスノガ第二條ヨリ第七條マデ、之ニ最後ノ二箇條ガ加ハリマスデゴザイマス、即チ本案ノ四十九條五十條ガ加ハリマスデゴザイマス、其要點ヲ舉ゲマスルト第一ニ機械器具ノ中ニハセムンと煉瓦等ヲ以チマシテ土地建物ニシカト取付ケタモノガアリマス、是等ハ所謂定著物デアリマスカラ抵當權ノ目的トナルコトハ民法三百七十條ノ規定ニ依テ自ラ明瞭デアリマスルシ、大審院ノ判決ニ於テモ認メテ居ルデゴザイマス、此他ノ多クノ機械器具ハ定著物トハナデ居リマセヌデ、唯土地建物ニ備付ケテアルニ過ギナイデアリマス、斯ウ云フ機械器具モ抵當權ノ目的トナルヤ否ヤト云フコトハ不明ニ屬シテ居リマシテ、裁判所ノ裁判モ區々ニナデ居リマスル、民法ノ第八十七條第二項ニ「從物ハ主物ノ處分ニ隨フ」ト云フ規定ガゴザイマスカラ、備付ケノ機械器具ノ抵當權ノ目的トナルト云フ解釋モゴザイマス、併シ他ノ一方ニ於キマシテ此八十七條第二項ハ特別規定ノ無イ場合ニ應用スベキ一般ノ解釋法デアル、然ルニ抵當權ノ效力ニ就テハ特別規定ガ有テ其特別規定ハ定著物ニ限ラレテ居ルト云フガ如キ理由ヲ以テ之ニ反對スル者モアルデゴザイマス、斯ノ如ク疑問ニナデ居リマスルシ、假ニ第八十七條第二項ヲ抵當ノ場合ニ適用スルコトガ出來ルト致シマシテモ、其規定ガケデハ未ダ足ラヌ所ガアルト云フコトハ免レマセヌト思ヒマス、ツレ故ニ本案ニ於キマシテハ備付ケノ機械器具モ亦抵當ノ目的トナルト云フコトヲ明ニ致シテ、同時ニ抵當權ノ設定行爲ニ別段ノ定メアル等ノ場合ニハ例外トスルト云フコトヲモ規定イタシタノデゴザイマス、其別段ノ定メト申シマスルノハ機械器具ノ全體ヲ抵當トナサヌト云フコトモ出來マスルシ、又重モナル機械、大ナル機械ガケハ抵當ニスルケレドモ瑣細ナル器具ノ類ハ抵當ニハセヌト云フコトモ出來ル趣意デアリマス、是ハ實際ニ頗ル關係ノ有ルコト、思ヒマスルカラ特ニ明言イタシテ置キマス、第二條ノ規定ガ即チ唯今述ベマシタコトニ當ルデアリマス、第二ニハ機械器具ガ抵當物トナリマスルニ付テハ其機械器具ヲ明ニ指定イタシテ置ク必要ガ有ルト信ジマシテ、其方法ヲ攷究イタシマシタノデアリマス、當事者間ニ於キマシテハ公正證書ニテ記載シテ置キマスレバ足リルトデゴザイマスルケレドモ、第三者ニ對シテ公示シマスル必要ガゴザイマスカラ、目錄ヲ提出セシメマシテ、ツレヲ登記ニ代ヘルト云フコトニ致シマシタノデゴザイマス、尙ホ前ニ述ベマシタ別段ノ定メガアリマスルトキニハ其別段ノ定メヲモ登記スルト云フコトニ致シマシタノデアリマス、即チ第三條及第四條ガ其規定デゴザイマス、第三條ノ書キ方ニ付キマシテチヨット注意ヲ致シマスガ、整理ノ際ニ汎博ニ失スルヤウナ書キ方ニ致シマシタノ定著物マデモ目錄ニ載セ

ルヤウニ見エマスノデゴザイマスガ、定著物マデ目録ニ載セマスコトハ實際出來マセヌコトアリマス。是ハ備付ケノ機械器具ダケヲ目録ニ載セルト云フコトニ相成リマセヌケレバナラヌコトト考ヘテ居リマス。第三ニハ機械器具ガ抵當物トナリマスルノハ不動產ノ定著物デアロ、或ハ其從物デアルト云フ關係ニ基クデアリマス。若シ不動產ト分離シマシテ其關係ガ止ミマシレバ其物ニ付テハ抵當權ハ消滅スルト云フ立法例モゴザイマス。ガ、本案ニ於キマシテハ一旦抵當物トナリマシタ以上ハ、假令不動產ト離レテ第三者ノ手ニ移リマシテモ尙ホ其物ニ對シテ抵當權ヲ行フコトガ出來ルト云フコトニ規定イタシマシテ抵當權者ヲ保護スル考デゴザイマス。併ナガラ又一方ニ於キマシテ第三者ノ利害ヲモ考ヘナケレバナラヌ、不動產デゴザイマスレバ登記ヲ致シテ置キマスル決シテ第三者ヲ誤ラシメル様ナ憂ハゴザイマセヌケレドモ、機械器具ノ如キモノハ目録ニ記載シテ置キマシテモ、其目録ニ記載シテ置キマシタ品物ト他ノ品物トノ分界ガ付キマセヌカラ、第三者ガ抵當物デアルト云フコトヲ知ラズシテ讓受ケマスル様ナ場合ガ有ラウト思ヒマス。然ルニ突然抵當權者カラ其品物ヲ取上ゲラレル様ナコトガ有リマシテハ第三者ハ不測ノ損害ヲ受ケマス。元來動產デアリマスモノヲ抵當トスルコトニ就キマシテハ、是非或ル特別ノ規定ヲ設ケマシテ、抵當權者ノ利益ト第三者ノ利益トヲ調和スル必要ガ有ラウト思ヒマシテ、民法ノ百九十二條、瑞西ノ債權法二百五條、獨逸民法ノ千百二十一條等ヲ參照イタシマシテ、善意ノ第三者ヲ保護スルコトヲ規定シテ設ケマシタデアリマス。其規定ガ即チ本案第五條デアリマス。此本條ニ「善意」トアリマスノハ無論善意、無過失ト云フ主意デゴザイマスガ、民法ノ百九十二條ナドニハ「特ニ善意、無過失ト書分ケテ」ゴザイマスカラ、此方モ或ハ書分ケマスル方ガ宜シイカモ知レマセヌ、其書キ方ニ付キマシテハ尙ホ御致究ヲ願イタイト存ジマス。第四ニハ唯今述ベマスル如クニ善意ノ第三者ヲ保護セムトシマスルト、實際最モ多クノ場合ニ於キマシテハ第三者ガ善意デアリマシテ、抵當權者ガ其權利ヲ實行スルコトガ出來ナイコトニナラウト思ヒマス。民法ノ百二十七條第二號、三百七十二條、三百四條等ノ規定ハゴザイマス。ケレドモ、實際是等ノ規定ニ依ッテ抵當權者ノ利益ヲ全ウスルコトハ出來ナイ場合ガ多イト存ジマス。ソコデ抵當權者ノ利益ヲ害セズ第三者ノ利益ヲ害セヌト云フコトニ致シマスニハ、債務者ニ於テ抵當トシマシタ機械器具ノ第三者ニ引渡スト云フコトノ無イヤウニ、ソレヲ豫防スルノ外ハ無イト考ヘマシテ、其目的ヲ以テ第四十九條ノ制裁ヲ設ケマシタノデゴザイマス。此制裁ハ新シイ規定デゴザイマスガ、既ニ刑法ニ於キマシテ自己ノ物ト雖モ差押トナッテ居ル或ハ質物トシタモノヲ擅ニ處分スル等ノ所爲ハ罰シテ居ルノデゴザイマス。カラ、他人ノ爲ニ抵當權ノ目的トシマシタモノヲ處分シマシテ、抵當權者ヲ害スルコトガ有ル様ナ行爲ヲ罰スルコト云フコトハ法理上、決シテ不當ノコトデナイト信ジマス。ノデゴザイマス。第五十條ノ規定モ矢張り同様ナ理論ニ基イテ設ケマシタノデアリマス。第五ニハ機械器具ヲ處分スルコトヲ絕對ニ禁ジマス。又穩當ナラザル場合ガ有ラウト考ヘマス。ノデゴザイマス。ソレハ例ヘバ或ル機械器具ガ不用トナリマシタ、或ハ舊式ノモノニナリマシテ新式ノモノト取替ヘマセヌケレバ、工場ノ經濟上甚ダ不利ナ場合ガ有ラウト思ヒマス。デスノ如キ場合ヲ慮リマシテ第六條ノ規定ヲ設ケマシタノデアリマス。即チ抵當權者ノ同意ヲ得マシテ不動產カラ離シ又ハ其備付ケヲ止メマシタ時分ニハ抵當權ハ消滅スルコトニ致シマシタ、尙抵當權

者ニ於キマシテモ正當ノ事由ガアルトキハ其同意ヲ拒ムコトガ出來ヌト云フコトニ致シマシテ、債務者ノ利害ト抵當權者ノ利害ヲ調和スルコト云フコトニ致シタイト思ヒマス。第六ニハ機械器具ノ抵當權ト云フコトニ就キマシテ尙一ツ攷究スベキ點ガ有ラウト思ヒマス。ノハ、若シ他ノ債權者カラ機械器具ダケヲ差押ヘマシテ競賣ニ付スルト云フコトガゴザイマス。ト、抵當權者ハ代金ノ上ニ優先權ヲ行フコトハ無論出來マス。ノデゴザイマスガ、機械器具ヲ取離シテ賣リマスレバ相當ノ價ニ賣ルコトガ出來マセヌカラ、結局抵當權者ノ損失トナラウト思ヒマス。ソレ故ニ他ノ債權者ガ機械器具ダケヲ離シテ差押ヘルト云フコトハ之ヲ禁ジマシテ、若シ他ノ債權者ガ權利ヲ實行セムト欲シマストキハ土地建物ト一緒ニ差押ヘナケレバナラヌト云フコトニ致シマシタ。ガ即チ第七條ノ規定デアリマシテ、佛蘭西民事訴訟法五百九十二條、獨逸民事訴訟法八百六十五條等ノ規定ヲ參照イタシマシタノデアリマス。是等ノ機械器具ニ對シマスル抵當權ノ效力ニ付テノ規定ト申シマスモノハ、各國ノ立法例ニ於キマシテモ大抵類似ノ規定ノアリマス。コトデゴザイマス。是ヨリ後段ノ規定ニ移リマスガ、第八條以下多クノ箇條ガゴザイマス。ル其要點ダケヲ摘シテ申述ベルヤウニ致シマスガ、第一ニ工場財團ヲ設ケマスノハ抵當權ノ目的トスル爲デアリマス。ソレ故ニ財團ヲ設ケマシテカラ一定ノ期間内ニ抵當權ヲ設定シマセヌトキニハ財團ハ消滅スル。又一旦抵當權ヲ設定シマシタ後ニ債務ノ辨濟等ニ依ッテ抵當權ガ消滅シマスル財團モ自然ニ消滅スルコト云フコトニ致シマシタ。デアリマス。即チ第十條ノ第四十八條ニ其規定ヲ設ケマシタ。或ハ財團ハ其儘ニ致シテ置イテ重ネテ抵當權ヲ設定スル場合ノ用ニ供スル方ガ一層便利デアラウト云フ考モ致シマシタ。ガ、財團ノ存シマスル間ハ個々ノモノヲ處分スルコトヲ禁ジマセヌケレバナラヌ。第二者ノ個々ノモノ、上ニ權利ヲ有シ其權利ヲ實行スルコト云フコトヲ禁ジマセヌケレバナラヌ。即チ第三者ノ利害ニ影響スルコトデゴザイマス。カラ、實際必要ナクシテ財團ヲ設ケテ置クト云フコトハ許シマセヌ方ガ宜カラウト思ヒマス。第二ニ工場財團ヲ組成スベキモノハ第十一條ニ列記シテゴザイマス。主トシテ有體物、有體物ノ設備並ニ物權ニ止メテゴザイマス。ルノデ、債權トカ、或ハ資本等ノ如キハ除イデゴザイマス。是ハ餘リ關係ガ錯雜ニナリマス。ルノミナラズ、有體物ニ工場トシテ運轉ノ附クダケノモノガ儘マデ抵當トナッテ居リマス。ルガ故ニ、ソレデ十分ノ融通ハ出來ラザリ。斯様ニ考ヘマシタノデゴザイマス。第三ニハ工業所有權トゴザイマス。ルノハ、特許、實用新案、意匠專用權等ノコトヲ申シタノデ、之ヲ財團ニ組入レテ置キマス。工場……抵當權ノ實行ノ場合ニ工場ヲ讓受ケマシタ者ハ直ニ其權利ヲ應用スルコトガ出來マシテ便利デアラウト云フ考デア。此第十一條ニ列記シテゴザイマス。ルモノハ、必シモ其全部ヲ財團ニ組入レル必要ハ無イ。其一部タケモ財團ノ組成ガ出來ルト云フ趣意デアリマス。是ハ財團ニ組入レマス。ルモノハ他ノ物權ノ目的ニナッテ居ラナイ。即チ何モ負擔ノ無イモノニ限リマス。ノデアリマス。カラ、若シ一ノ土地ガ既ニ抵當ニナッテ居ル、ソレガ爲ニ財團ガ出來マセヌ様デハ不便デアリマス。カラ、サウ云フ故障ノアルモノハ除イテ他ノ殘リノモノヲ以テ財團ヲ作ルト云フコトモ出來ルヤウニシマシタ。方ガ便利デアラウト云フ考デアリマス。又機械器具等ノ項少ナルモノデス。サウ云フモノヲ財團ニ組入レテ置キマス。ル變更等ノ場合ニ却ッテ煩雜デアリマス。カラ、サウ云フモノハ財團ニ入レナイト云フコトモ出來マス。ルヤウニ、必シモ全部ヲ以テ財團ヲ作ラヌケレ

バナラスト云フコトニハ致シマセヌノデアリマス、要スルニ財團ノ範圍ノ廣狹伸縮ハ專ラ當事者雙方ノ便宜ニ任セテ置キマスルガ宜カラウト云フ考デアリマス、他ノ一面ニ於キマシテハ獨立ノ工場ガ數箇アリマス時分ニ、其數箇ノ工場ヲ合ハシテ一ノ財團ヲ作ルコトモ許シテ置キマス方ガ便利デアラウト思ヒマシテ、第八條ニ其規定ヲ置キマシテ、本案於キマシテハ、同一ノ所有者即チ一人ノ所有者ニ屬スル數箇ノ工場ヲ以テ財團ヲ作ルト云フコトダケハ許ス趣意デアリマスガ、或ハ數人ガ各自ノ工場ヲ合ハシテ一ノ財團ヲ作テ連帶シテ金融ヲ計ルコトヲモ許シマシテ方ガ實際ハ便利デアリマセウカ、尙ホ其邊ニ付キマシテハ御致究ヲ願ヒタイト思ヒマス、第三ニハ工場財團ニ屬シマスルモノハ個々別々ニ讓渡シマス、或ハ物權、賃借、差押等ノ目的ニスルコトヲ禁ジマシテ、既ニサウ云フ權利ノ目的ニナッテ居リマスモノヲ財團ニ組入レルコトモ許シマセヌノデアリマス、其規定ガ第十三條第二十九條第三十三條等ニ掲ゲテゴザイマス、若シ此規定ニ違反シマシテ、讓渡等ノコトヲ致シマスレバ、其行爲ハ無効デアルト云フ考デアリマス、尤モ此場合ニ於キマシテモ民法第九十二條ノ適用ハアルト云フコトヲ認メテ居リマス、即チ善意ノ取得者ヲ保護スルト云フ規定デアリマスガ、此百九十二條ノ適用ハアルト云フコトヲ認メテ居リマス、第五條、前ニ述ベマシタ第五條ト權衡上、或ハ此所ニモ明文ヲ置キマシテ方ガ適當デアラウカモ知レマセヌ、是モ御致究ヲ願ヒタイト存ジマス、此規定ヲ設ケテ置キマセヌト個々別々ノ物ニ對シテ第三者ノ權利ヲ實行イタシマスルタメ財團ガ自然壞レテ仕舞フヤウニナリマス、又個々別々ノ權利ヲ實行イタシマスルト競賣ノ場合ニ競賣代金ノ中カラ個々別々ノ權利ニ對スル配當金ヲ算定スル必要ガ有リマスケレドモ是ハ實際出來ナイコトデアリマスカラ、財團ニ屬スルモノハ少シモ他ニ係累ガ無イト云フコトニ致ス必要ガアラウト思ヒマスノデアリマス、一旦財團ニ組込ミマシタモノハ之ヲ處分スルコトハ禁ズルノデアリマスケレドモ、實際ニハ財團カラ除クト云フ必要ノ場合モ有ラウト思ヒマスカラ、抵當權者ノ同意ヲ得テ財團カラ除ケバ差支ナイト云フコトニ致シマス爲ニ第十五條ノ規定ヲ設ケマシタノデアリマス、第四ニハ工場財團ガ適法ニ設定セラレマス、其財團ヲ一箇ノ不動產ト看做シマシテ、其不動產ヲ讓渡シ或ハ抵當物トスルコトハ許シマスガ、其他ノ物權ノ目的ニシマシタリ或ハ賃借ノ目的ニシマスコトハ許サヌト云フコトニ致シマシテ、例ヘバ賃借ノ目的ニ致シマス、民法三百五十九條ノ規定等ガゴザイマシテ抵當權ノ實行上、不便ヲ來シマスカラソレヲ許シマセヌノデアリマス、其規定ハ即チ十四條デアリマス、斯ノ如ク一箇ノ不動產ト看做シマス以上ハ、民法、民事訴訟法、不動產登記法、競賣法等ノ中ノ不動產ニ關シマス規定ハ當然適用サレルコトニナリマス考デアリマス、唯各箇ノ不動產ヲ抵當ニシマシタ場合ノ規定デ工場財團ニ屬スル不動產ニモ當然適用セラル、ヤ否ヤト云フ疑ノ有リマス規定ダケヲ纏メマシテ第十六條ニ規定イタシタノデアリマス、第五ニハ工場財團ノ設立、或ハ抵當權ノ設定ニ關スル規定ガ多數ゴザイマスカラ之ヲ一括イタシマシテ其筋合ダケヲ述ベマスデアリマス、工場財團ノ設立ハ保存登記ヲ受ケテ出來ルコトニナリマス、保存登記ハ工場所在地ノ登記所デ致シマス、登記申請書ニ目錄ヲ添ヘテ出サセマス、登記所デハ其目錄ニ依リマシテ調査ヲ致シマス、目錄ニ掲ゲテアリマス物件ノ中デ登記ノアリマスモノ、即チ船舶、土地、建物、地上權、地役權、不動產ノ賃賃借、是等ハ登記簿ニ付テ調査ヲ致シマシ

テ、若シ既ニ他人ノ權利ノ目的トデモナッテ居リマスレバ保存登記ノ申請ヲ却下シマス、是等ノ故障ノ有リマセヌ時ニハ登記簿ニ保存登記ノ申請ノ有ッタト云フコトヲ記載イタシマシテ、其記載ヲ致シマシタ後ニハ他ノ登記ハシマセヌコトニナル、唯此申請ノ記入ヲ致シマシタ時カラ愈保存登記ヲ致シマスマデノ間、又ソレニ次イデ抵當權ノ登記ヲ致シマスマデノ間ハ極ク急速ヲ要スル、即チ差押、先取特權ノ登記ハ假ニ致シマス、其後ニ此保存登記ノ申請ガ却下ニナリマス、或ハ效力ヲ失ヒマス時ニハ假ノ登記ガ確定ノモノトナリマスシ、若シ保存登記ガ出來マシテ、又抵當權ノ登記モ出來マス時ニハ假ノ登記ハ無効トナルト云フコトニ相成リマス、若シ物件ガ他ノ登記所ノ管内ニ在リマス時キニハ保存登記ノ申請ヲ受ケテ登記所カラ他ノ登記所ニ通知ヲ致シマシテ、登記ノ際本ヲ取寄セ、ソレニ依テ調査ヲ致シマス、保存ノ申請ノ有ッタコトハ他ノ登記所ニ於テツレノ職權ヲ以テ記入ヲ致シマス、登記所ニ於テハ多少手數ガ掛リマスケレドモ、申請人ノ爲ニハ極メテ簡便ノ手續ニナルノデアリマス、斯ノ如クニシテ財團ノ登記ガ出來マシテカラ後抵當權設定ノ登記ヲ致シマスノデアリマスカラ、假令多クノ物件ガゴザイマシテ工場ガ數箇アリマシテモ抵當權設定ノ登記ハ一箇所ニ於テスレバ宜イ、其手續モ極メテ簡單ノコトデアリマス、凡ソ二十分、一時間モ掛レバ充分登記ガ出來マスコトニナルノデアリマス、是等ノ手續ガ第九條、第十二條、第十七條乃至第二十八條、第二十四條、第三十七條ニ掲ゲテアリマス、第六ニハ工場財團ニ屬シマスモノハ目錄ニ掲ゲマシテ登記所ニ備ヘテ置キマスコトハ先ニ申述ベマシタ通りデアリマス、從ヒマシテ其物ニ増減變更ヲ生ジマシタトキニハ目錄變更ノ手續ヲ致シマスルコトニナルノデアリマス、其手續ハ簡單ニナッテ居リマス、又債權者ノ同意ヲ要スルコトモアリマスケレドモ、其同意モ豫メ得テ置ケバ宜イノデアリマス、或ハ極ク瑣細ナル機械器具等ニ變更ガ有ッタ爲ニ一々變更ノ申請ヲスルノハ煩雜ニ堪ヘヌト云フコトモゴザイマセウカ、先ニ述ベマシタ通りニ瑣細ナル器物等ハ必シモ財團ニ組入レヌモ宜イノデアリマスノミナラズ之ヲ財團ニ組入レテ置キマシテ變更ヲ生ジタ場合モ別段變更ノ手續ヲスルニ付テ制裁モ無イノデアリマスカラ、實際ノ運用ハ如何様ニモ附キマシテ左マデ煩雜ナル手續ヲ要スルコトハアリマスマイカト思ヒマスノデアリマス、最後ニ第七デアリマスガ、抵當權ノ實行ハ民法、民事訴訟法、競賣法等ニ據リマスノデアリマス、競賣ニ就キマシテハ執行裁判所ト云フコトヲ特定メル必要ガ有リマス、又工場財團ヲ競賣ニセムトシマシテモ買受ケル者モ有リマセヌ時分ニハ個々別々ノ物ヲ離シテ競賣スルト云フ必要モ有ラウト思ヒマスカラ其事ヲ規定イタシマシタ、又競落ノ場合ニ抵當權ガ消滅イタシマス競落人ノ所有權ノ登記ヲ必要トシマス、ソレヲ職權ヲ以テ囑託シテ個々ノ登記簿ニ登記ヲスルト云フコトハ是ハ特ニ規定イタシマセヌト一般ノ規定ニハゴザイマセヌカラ特別ノ規定ヲ設ケタノデ、即チ第四十五條ヨリ第四十七條マデノ規定デアリマス、工場ニ付キマシテ財團ヲ設ケルト云フガ如キコトハ、外國ニハ其例ヲ見マセヌコトデアリマスガ、外國ト日本トハ大ニ事情ヲ異ニシテ居リマス、第一、土地ト建物ガ別々ノ不動產ニナッテ居ルト云フコトモ是ハ日本ニ限ルノデアリマス、外國デハ土地ヲ抵當ニスレバ建物モ無論抵當ニナリマス、ソレデ又土地モ大抵大キナ土地デアリマスカラ一ツノ工場ニサウ幾筆ノ土地ガ有ルト云フヤナコトハアリマセヌカラ、實際ハ財團ヲ設ケマシタノト同ジヤウナ結果ニナルノデアリマスケレドモ、

日本ニ於テハ建物ガ土地ト別々ニナリ居ル、又其上各筆ノ土地ガ小サウゴザイマスカラ、一ツノ工場デモ土地ガ幾筆ニモナリ居テ各筆毎ニ登記ヲセヌケレバナラス、建物モ各筆毎ニ登記ヲセヌケラヌト云フコトガアリマスカラ、實際工場財團ヲ設ケルト云フコトガ必要デラウカト存シマシテ斯様ナ規定ヲ設ケマシタノデゴザイマス、尙御質問等ガアレハ御答イタシマス、十分ニ御審議ヲ願ヒタイ

○委員長代理(子爵堤功長君) チョット如何デゴザイマス、マデ十二時マデハ時間ガアリマスカラ大體ニ就テ御質問ヲ……

○男爵吉川重吉君 私チヨット伺ヒタイノデ、是ハ他ヲ見マシタラ極ク明カナコトカ存ジマセヌガ、此工場抵當法ト鐵道抵當法トノ法案ヲ比較シテ見マスルト、マデ能クハ見マセヌガ、大分違テ居ル所ガ有ルヤウニ考ヘラレル、ソレデ他ノ抵當法案ニ有テ此抵當法案ニ無イ事柄ガ大分チヨット見當ルヤウニ思ハレルガ、ソレハ何デアルカト申シマス、他ノ法案ニハ抵當權者ニ關スル事柄ガ大分規定シテアリマス、ソレカラ競賣ニ關スルコトガ餘ホド細密ニ規定シテアリマスガ、ソレラガ此法案ニハソレ程ニ細密ニナイヤウニ存ジマスガ、其理由ヲチヨット伺ヒタイ

○政府委員(河村讓三郎君) 本案ニ於キマシテハ第十四條ヲ以テ工場財團ハ一箇ノ不動產ト看做スト云フコトニ致シマシタ、不動產ニ關スル民法上ノ規定ハ當然適用サレルト云フコトニ致シマシタノデアリマス、他ノ法案ニハ或ハ公益上ノ理由等ガアリマシテ、民法其他ノ法律中ノ總テノ規定ヲ適用スルコトヲ適當ト致シマセヌノデ、或ル規定ダケヲ特ニ適用スルト云フ主意デ特別ニ掲ゲテアルノデアラウト思ヒマスガ、本案ニ於キマシテハ工場ノコトデアリマスカラ、別段特別ノ規定ヲ設ケル 必要ハアリマセヌ、一般ノ規定ニ依テ差支ナイ、一般ノ規定ニ依ル方ガ漏レ無クシテ宜シカラウト云フ考デゴザイマス

○富井政章君 私ハ各條ニ付テハ幾ツモ質問シタイ點ガアリマスガ、全體ニ關シテハ唯一ツ此法律案ノ體裁ニ就テ御伺ヒシタイ、實質ニ關シテハ此法律案ハ今日ノ時勢ニ最モ有用ナモノト考ヘマスルニ依テ全然贊成ヲ表スルノデアリマス、形ト申スノハ斯ノ如キ五十箇條モアル法律ハ是マデ大抵、章ニ分テ居ルヤウデアリマス、尤モ信託法、鐵道抵當法ナドハ是ヨリハ條數ガ多イノデアリマスガ……是程ノ條數ガ有レバ章ニ分ツコトガ出來ルナラバ分ッダ方が幾ラカ體裁ガ宜カラウト思フ、併シ條文ヲ一讀イタシマスルニ各條密接ノ關係ヲ持テ居ルヤウデアリマスカラ、章ニ分ツコトハ隨分困難デアルトハ考ヘマス、政府委員ニ於テハ是ハドウシテモ分ツコトガ出來ナイト御見込ミニナツタノデアリマス、此點ヲ……

○政府委員(河村讓三郎君) 御尤デアリマスガ、政府委員ニ於キマシテモ一應同様ノ考ヲ持チマシタノデアリマスガ、御説ノ通りニ大分前後牽聯シテ居リマスノデ章ニ分ツコトガ困難ト見マシタノデ、出來ヌト云フ程デアリマセヌガ、困難ニ思ヒマシテ斯様ニ致シマシタ、出來レバサウ致シタ方が……

○富井政章君 マデ各條ニ付テ質問スルコトハ出來ナイノデアリマスガ、若シ出來ルトスレバ、ドコヲ問フデモ宜シイノデアリマスガ、其ニ點々委員長ニ伺ヒマス

○委員長代理(子爵堤功長君) 御相談シマスガ、如何デゴザイマセウカ、御質問ガ

無クハ各條ニ付テ質問ヲ始メマセウカ、今日ハ止メマシテ明日ヤリマセウカ

○小松原英太郎君 モウチット質問ヲ續ケタウゴザイマス

○委員長代理(子爵堤功長君) 續ケテ御異存ガ無クハ續ケテアルコトニ致シマス、富井君此内ドコナリトモ御尋ニナラユニ……

○富井政章君 細カナ質問ハ第一條カラアルノデアリマスガ、大抵ハ皆細カナ事デアリマシテ、強ヒテスル必要モ無イノデアリマス、少シ大キナ點ニ付テ何ノ所ガ一二アリマス、ソレハ第一ハ第五條ノ所デアリマス、是ハ本法案中最モ重要ナル規定ノ一ト思ヒマス、即チ本案ノ目的ハ工場ヲ抵當トシタ場合ハ唯 不動產ダケガ抵當權ノ目的トナルノデハナイ、工場ニ備付ケテアル機械、其他ノ不動產モ舉ゲテ抵當權ノ目的トナルト云フノデアリマスガ、併シソレト民法上ノ原則即チ動產ト云フモノハ第三者ニ公示スル途ガ無イカラ、第二取得者ノ占有ト云フコトヲ保護セバナラヌト云フ考デ調和スルコトヲ欲セラレタ規定ト認メマス、此調和ト云フコトガ詰リ本案ノ骨子デアリマスガ、又之ト同時ニ極メテ困難ナコトデアルト考ヘマス、私ハ本案ニ對シテハ斯ウ云フ考ヲ持テ居ルノデアリマス、抑、斯ノ如キ法律案ヲ設ケル以上ハ、即チ機械其他ノ動產ヲ抵當權ノ目的ト爲スト云フ方針ヲ採ツタ以上ハ、其動產ノ範圍ハ極ク廣クタクテモ宜シイ、細カナモノハ止メテモ宜シイ、其代リニ大キナ機械、抵當權ノ目的ニ包含セバ困ルト云フ大キナ動產ニ付テハ成ルベク抵當權者ヲ保護スルコト云フコトニセバ此法律案ノ目的ニ完全ニ達セナイト思フ、成ルベク此善意トカ云フ無形ノ事實ヲ證明セバナラヌト云フコトノ無イヤウニシタイト思フ、サウデナイト同ジヤウナ場合デ今日、甲裁判所ガ白イト判決シタモノヲ明日ハ乙裁判所ニ於テ黒イト判決スルト云フノデハ抵當權者ノ權利ト云フモノハ甚ダ薄弱ナルモノト考ヘマス、ソレ故ニ登記ト云フ方法ガ設ケテアル以上ハ不完全デアアルケレドモ、目錄ヲ提出シテ登記簿ニク付ケタナラバ登記ト同一ノ效力ヲ有スルト云フコトニシタ以上ハ隨分類似ノモノガ多イコトデアッテモ、成ルベク抵當權者ヲ保護スルコト云フコトヲ希望イタスノデアリマス、此趣意カラ第五條ニ付テ少シク贊成イタシ兼ル點モアルノデゴザイマスガ、今修正意見ヲ提出スルコトガ出來マセヌカラ、先ツ第五條ノ趣意ヲ念ノ爲ニ伺ヒ置キタイト思ヒマス、或ハ御答ニ依テハ私ノ疑問ガ晴レテ修正案ヲ提出スルノ必要ナキニ至ルカモ知レマセヌ、先刻政府委員ノ御説明ニ依レバ此案ハ一ツノ場合ヲ規定シテ居ルノデアル、第一ハ工場ニ關スル不動產ヲ抵當トシタ場合、即チ第七條マデ、第二ハ工場財團ト云フモノヲ設定シテ之ヲ抵當權ノ目的トスル、第八條以下、如何ニモ其通りニ解スルノデアリマス、而シテ此第五條ハ其第一ノ場合ニ當ルモノデアルト云フ御説明デアッダガ、如何ニモ場所カラ云ヘバ其通りデアルガ、サウスルト此第二ノ場合、此工場財團ヲ設定シテ之ヲ抵當權ノ目的ト爲シタ場合ニ第五條ニ掲ゲテアルヤウナ事實ガアッタトキハ如何ナル結果ニナルノデアリマスガ、即チ一ノ動產ヲ抵當權ノ實行前ニ處分シテ第三取得者ニ引渡スト云フヤウナ場合ハ第五條ニハ其ノ物ニ付テ之ヲ行フコトヲ得但シ第三取得者ガ善意ナリシトキハ此ノ限ニ在ラスト、財團ノ場合ハドウナリマスルノデアリマスガ、或ハ第三二十五條ニ依テ目錄ノ記載ハ之ヲ登記ト看做スト云フノデアリマスカラ、此場合ハ登記ト同一ニ抵當權者ヲ保護スルコト云フコトニナル御趣意カトモ思ヒマスガ、併シ第三取得者ガ善意デアッタトキハドウナルノデアリマスガ、元來ガ

動産アリマスカラ、民法第九十二條ノ規定ガ行ハレノデアルカ、ソレトモ抵當權ノ目的トナシテ仕舞フノデアルカラ不動産ト見テ民法第七十七條デアッタト思ヒマスガ、物權ノ總則ニ依テ絶對的ニ保護セラレト云フコトニナルノデアリマセウカ、ソレガ第一ニ伺ヒタイ、ソレカラ第二ニハ此第五條ノ規定ト云フモノハ素ヨリ登記ガアッタ後ニ適用ヲ生ズル場合デアラウト思ヒマス、其點モ念ノ爲ニチヨット伺ヒマス、ソレカラ但書デアリマス、「第三取得者ノ善意ナリシトキハ此ノ限ニ在ラス」トアリマスガ、政府委員ノ御説明ニ依レバハ民法第九十二條ト同一ノコトデアッデ即チ善意バカリデハ足りナイ、過失ノ有ツタ場合モ含ムト云フ御説明デアッデヤウニ思ヒマスガ、私ハサウハドウシテモ讀メナイ、私ハ全ク善意デアッデ場合ノミガ規定シテアルト解シタノデアリマス、ソレデ此規定ヲ此儘デ可決スルコトニナッデモ過失ノ場合ダケハ是非入レテ御貫ヒ申シタイ、サウデナイト抵當權ノ保護ト云フモノガ非常ニ薄弱ニナラウト思ヒマス、即チ登記シテアッデモ善意デアレバイケナイト云フ方が原則ニナッデ、容易ニ過失ノ推定ト云フモノガ下セナイ、是ハ幸ニ立法ノ主意ハ過失ノ場合モ惡意ト同一トスルコトニナル以上ハ、過失ト云フコトハ是非書キ表ハシタイト思ヒマス、ソレハ畢竟修正意見ニナリマスカラ、今申スノデアリマセヌ、唯過失モ一要件トナルト云フコトニ先刻聽イタノデアリマス、念ノ爲ニ一應其點ヲ伺ッデ置キタイ、極メテ重大ナコトデアリマス、最後ニ即チ第四ニ伺ヒタイコトハ善意ガ推定セラルルノデアルカ、又ハ惡意若クハ過失ガ推定セラル、ノデアリマスガ、言葉ヲ換ヘテ言ヘバ抵當權者ノ方カラ進シテ第三者ガ惡意デアアルカ又ハ過失ガアッタカト云フコトヲ證明セネバナラヌデアリマスガ、或ハ第三者ノ方カラ自分ハ善意デアッデ、且ツ過失ガ無カッタト云フコトヲ證明シナケレバナラヌデアアルカ、是モ此法律案ノ運用上ニ於テ非常ニ利害ノ結果ヲ異ニスルモノデアラウト思ヒマスカラ、其點ヲ伺ッデ置キタイト思ヒマス

○政府委員(河村讓三郎君) 唯今ノ御尋ハ四點デアリマシタ様デアリマスガ、便宜上第四ノ點カラ御答イタシマス、立證ノ責任ハ第三取得者ノ方ニアルト云フ立法上ノ考デアッデデアリマス、第二ノ點ハ前ノ説明ノ際ニモ申シマシタ通り善意無過失ト云フ考デアリマス、第二ノ點ハ登記ヲ致シマシタ後ニ此適用ガ生ズル、第一ノ點ハ御説ノ如クニ極メテ困難ナ問題デアリマス、是ガ不動産デアリマスレバ少シモ疑ハ生ジマセヌデアリマスガ、本來動産デアリマシテ不動産ト一種ノ關係ガ有ル爲ニ抵當權ノ目的トナルト云フコトヲ規定セムトシマスルノデアリマスカラ、ドウモ不動産ト同一ニ見ラレマスマイカト思ヒマス、即チ第二者ハ其モノガ抵當物デアルト云フコトヲ如何ニシテモ知り得ルコトガ出來ヌ場合ガ往々アラウト思ヒマス、其場合ニ第三者ヲ保護スルコト云フ規定ガアリマセヌト、工場ノ機械器具ト云フモノハ不安心デ決シテ買受ケルコトハ出來ナイト云フ様ナ結果ニナラウト思ヒマス、却ッテ機械器具ノ融通ト云フコトガ塞ラレ仕舞フ様ナ結果ニナラウト思ヒマス、ソレガ爲ニ善意ノ第三者ヲ保護スルコトガ必要デアラウト考ヘマス、然ラバ其大キナ機械、容易ニ動カセヌ様ナ機械ダケニシテ置イテ、其代リ如何ナル場合デモ抵當權ヲ實行スルコト云フコトニ付キマシテハ誠ニ御尤デアリマスガ、實際ハ前ニモ述ベマシタ通り別段ニ定メサウ云フコトニ致シテ置キマスレバ御考ノ通りニナラウト思ヒマス、微細ナモノハ抵當ニ入レヌト云フコトニ致シテ置キマスレバ疑ハ起リマセヌカト思ヒマス、併シ當事者ガ便宜上總テノモノヲ抵當ニ致シマスノヲ禁ズルマデノ必要モアリマセヌカト

思ヒマス、若シ總テノモノヲ抵當ニスルコト云フコトニナリマスレバ其抵當權ノ主意ヲ飽クマデ貫徹スルコト云フコトハ少シ困難デアハアルマイカト云フ考デアッデヤウマス、尙相當ノ修正ノ御意見デアアリマスレバ承リタイト思ヒマス

○富井政章君 最後ノ御意見ニ付キマシテハ實質上、私共ノ希望スル通りノ主意デアアルコトガ分リマシタ、甚ダ満足スルノデゴザイマスガ、此文字デハ少シ其主意ガ貫徹シナイト思ヒマス、尙政府委員並ニ諸君ト御相談ノ上、修正意見ヲ出シ得ル際ニ少シ修正ヲ加ヘタイト思ヒマス、第一ノ點デアリマスガ、私ノ伺ッタ點ハ未ダ少シ明瞭ナ解決ヲ得ナイト思ヒマス、財團ヲ抵當權ノ目的ト爲シタ場合ニモ善意ノ第三者ヲ保護スル精神デアアルカノ様ニ聽取リマシタガ、サウ致スト第三十五條ノ規定アルニ拘ラズ民法第九十二條ト云フモノハ當然適用セララル、ト云フ御見解デアアルノデアリマスガ、即チ善意ノ第三者ガ保護セララル、ト云フコトハ明文ヲ要セナイ、民法第九十二條ガ當然行ハレルト云フ結果デアアルノデアリマスガ、若シサウデアレバ第五條ノ場合ニモ明文ヲ要セナイト云フコトニナリハセヌデウカ、若シ第五條ノ場合ニ付テ民法第九十二條アルヲ以テ足レリトセナクテ此所ニアル様ナ規定ヲ要スルナラバ財團ノ場合ニモ何カ規定ガ必要デアハナイソデアリマセウカ、其點ガ分ラナイ

○政府委員(河村讓三郎君) 先刻御答ヲ漏シマシタガ、五條ノ規定ハ土地建物ヲ抵當ニイタシマシタ場合ダケニ適用サレマス、財團ヲ造リマシタ場合ハ十三條ニ依リマシテ財團ニ組込マレテ居リマス備付ケノ機械器具モ讓渡スコトハ出來ヌト云フコトノ考デアリマス、其場合ニ民法第九十二條ノ適用ガアルカ否ヤト云フコトニ付キマシテハ先刻チヨット説明ノトキニ申シマシタガ、矢張り其適用ハ有ルト云フ考デアリマス

○富井政章君 分リマシタ……尙一ツ唯今質問イタシマシタ第五條ノ適用ニ大關係アルコトト思フ、第四十九條ノ適用ニ付テチヨット伺ヒマス、抵當權ノ目的トナスモノラ處分シタ場合ニハ重禁錮ニ處スルコト云フコトガアリマス、是ハ登記ノ有ツタ無カッタニ依テ被害者ガ違フノデアアル、抵當權者ガ抵當權ヲ失フト云フ結果ニナル場合ニハ即チ抵當權者ヲ保護スル爲ニ斯ノ如キ強イ制裁ヲ設ケラル、コトニナル、本案ノ趣旨トスル所ハ其點ニアルノデアラウト思フ、併ナガラ其處分ガ無効デアルト云フ場合ニハ抵當權者ハ何ノ損害モ受ケナイ、此場合ニハ第三取得者ガ損害ヲ被ムル、即チ讓受人ガ損害ヲ被ムルト云フコトニナルノデアリマス、矢張り讓受人ヲモ保護スル目的ヲ以テ其場合ニモ即チ抵當權者ニハ何ノ損害モ生ジナイト云フ場合ニモ、矢張り此刑罰關スル規定ヲ適用スルコト云フ御趣意デアリマスガ……分リマシタカ知ラヌ、モウ一遍言フテモ宜ウゴザイマス、即チ讓渡其他ノ處分ガ有效デアアル場合ニ限ラズ、無効デアアル場合ニモ矢張り此規定ト云フモノハ適用セララルノデアリマセウカ、其場合ニハ抵當權者ハ損害ヲ被ムラナイ場合デス、讓受人ハ損害ヲ被ムルカモ知レナイ、刑法ノ冒認罪ニ就テモ同ジヤウナ問題ガ起ルト思フノデスナ、登記法ノ出來ルマデハ公正デアリマスカラ公正又ハ登記ノ有ル無シニ拘ラズアノ不動産ノ不當處分ニ關スル刑法ノ規定ト云フモノガ行ハル、ノデ有ルカ無イカ判決例ハ行ハル、コトニナッデ居リマス、大ニ議論ハ有ルヤウデアリマスケレドモ、此規定ヲ設ケラレタ趣意ハ何レニアルカ

○政府委員(河村讓三郎君) チヨット伺ヒマスガ、登記ヲシタ場合トセヌ場合トニ依

テ區別ガアルカト云フヤウナ御尋デアリマシタガ、其所ノ所ノ關係ハドウ云フコトデアリマシタカ

○富井政章君 尙言葉ヲ換ヘテ申シマスレバ、第三取得者、讓受人ガ善意ニシテ且ツ過失ナキ場合ニモ惡意又ハ過失ノアッタ場合ニモ區別ナク此規定ガ適用セラレ、第三者ガ惡意デアッタカ又ハ過失ガアッタ場合ニハ抵當權者ハ損害ヲ被ムラナイ、即チ其處分ト云フモノハ無効デアル、讓渡ト云フモノハ無効デアルカラ債務者ヲ刑ニ處セナクテモ抵當權者ハ損害ヲ被ムルコトハ無い、併ナガラ其場合ニハ讓受人ハ損害ヲ被ムルデアリマセウ、兎ニ角サウ云フコトヲシテハ宜シクナイ、誰ニカ損害ヲ生ズルト云フ極メテ不當ナ行爲デ罰スルト云フ廣イ趣意ニ出テ居ルノダカラ、ツレナラバ此儘デ文章ハ宜イト思ヒマスガ、若シ抵當權者ノミヲ保護スルト云フ趣意ニ出テ居シテ、抵當權ガ害セラル、ト云フコトヲ防グト云フ目的ニ出タモノナラバ、モウ少シ文章ヲ狄メニヤ行クマイト思ヒマス

○政府委員(河村讓二郎君) 御答イタシマス、此第四十九條ノ趣意ハ第三取得者ガ善意ニテ即チ抵當權者ガ權利ヲ失フト云フ場合ハ勿論デアリマスルシ第三取得者ガ惡意デアリマシテ、即チ抵當權ノ實行ハ妨ゲナイ場合、其場合モ矢張り罰スルト云フ精神デアリマスル、ツレハ第三者ヲ保護スル趣意モゴザイマスガ、寧ロ矢張り抵當權者ヲ保護スルト云フ方ノ考デアリマス、ト申シマスルノハ善意惡意ノ疑問ヲ決スルト云フコトハ實際困難デアラウト思ヒマスルカラ、兎ニ角此讓渡ヲシマスレバ第三者ノ善意ノ場合ガ有リ得ベキコトデアル、而シテ抵當權者ヲ害スベキコトガ有リ得ベキコトデアルカラ、絶對的ニ罰スベキモノデアルト云フ趣意デアリマス

○委員長(子爵岡部長職君) 諸君、本日ハ是ニテ散會ヲ致シマス

午前十一時五十二分散會

出席者左ノ如シ

委員長 子爵岡部 長職君 委員長代理 子爵堤 功長君

委員

子爵新莊 直陳君 名村 泰藏君 平山 成信君

小松原英太郎君 男爵吉川 重吉君 男爵藤大路親春君

馬屋原 彰君 富井 政章君

國務大臣

農商務大臣 男爵清浦 奎吾君 司法大臣 波多野敬直君

政府委員

司法省民刑局長 河村讓二郎君 農商務省商工局長 森田 茂吉君